

教育

かわはら ゆきはる
川原 幸治 議員が問うこれからの学校のあり方は
学校を一つのチームとして対応

質問を終えて

多くの教員で一人ひとりの児童・生徒に向き合える、学年学級づくり、教員負担をどう軽減していくか、今後も検討していただきたい。

映像はこちら



川原 教育学習支援業は、新卒3年以内の離職率が46%と言われている。教育現場の業務過多を耳にするが、精神的・肉体的理由での離職は、避けるべきだと思う。そこで各小中学校の教員数をお聞きたい。

学校教育課長 教員不足は深刻な問題であり、学校運営や教育環境に大きな影響を与えている。課題として、長時間労働、保護者対応、特別支援学級増加などがある。

現在の教員数は事務員を除いて、第一小47人、第二小48人、第三小40人、須恵中48人、東中24人で、欠員は第一小2人、第三小2人、須恵中1人である。

川原 退職した教員の再任や、非常勤教員を任用する考えは、

学校教育課長 会計年度職員など、各学校に平均7人以上配置している。

川原 須恵町の小中学校は教科担任制か。

学校教育課長 小学校は学級担任制、中学校は教科担任制である。

川原 全てを1人の教員がカバーする学級担任制は、個人の負担が大きいと感じる。

福岡県内では幾つかの小中学校で、チーム担任制に移行している。複数の職員で学年全体を受け持つチーム担任制についてお聞きたい。

学校教育課長 チームで学級を見ていく考え方は素晴らしい、子どもたちにとっても安心できる環境だと思う。

現在、学校現場では、チーム学校という理念のもと、各学年の教員がチームとなって担当学年の子どもたちを見ていく学校経営を行っている。

川原 今後、チーム担任制を導入する考えはあるか。

教育長 チーム担任制の理念は素晴らしいと思うが、病気や産休育休の代替教員が、すぐに配置されない現状では、制度としての実現はかなり厳しい。



※質問した議員自身の責任でまとめた原稿を、そのまま掲載しています。詳細は、映像配信をご覧ください。

町としての今後の展望は。

町長 最終的には、発生した事案は私のところに報告がある。その段階で、弁護士への相談や警察への連絡などは私のほうから命令をする。

必要なら法的提訴も検討するが、須恵町の職員は質が高くそこまでいいない。

これからも職員の心のケアなども含め、この問題については総務課はじめ、各担当課長と同じベクトルを向け対処していく。

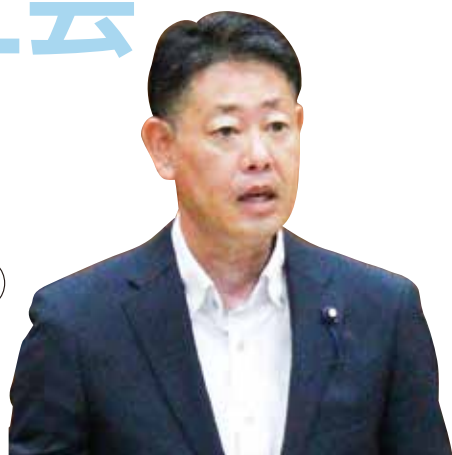
社会

ひらやま さとし
平山 諭 議員が問うカスハラの実状と対策は
マニュアルと相談体制の充実を

質問を終えて

マニュアルの整備、研修の継続、職員へのフォローアップ体制の充実を図るとともに、ぜひ予防的対策にも取り組んでもらいたいです。

映像はこちら



平山 カスハラは、今や多くの企業、医療現場などにおいて深刻な社会問題となっており、様々な対策が必要である。須恵町役場や学校におけるカスハラの実態と対策について伺う。過去1年でカスハラは何件発生しているのか。

総務課長 令和6年度における事案は、庁舎では6件、学校では0件と報告を受けている。

平山 現在、把握している案件にはどのような事例があるのか。

総務課長 役場の手続きと関係ない事、法令制度上認められない事、暴言威圧的な言動、長時間にわたるクレームなどの精神的攻撃が発生している。

平山 カスハラとは何か町民への周知等はしているのか。

総務課長 現在のところは、町民に対する広報やホーム

ページなどでの周知は行っていない。

平山 カスハラに対する職員への研修や、対応マニュアル作成は行っているのか。

総務課長 今後カスハラを含めたハラスメント対策マニュアルの作成を検討していく。令和6年度に全職員を対象として、クレーム・カスハラ対応研修を実施している。

平山 職員へのメンタルケア対策は行われているのか。

総務課長 労働環境の改善と安全衛生の観点から、メンタルヘルスが不調の職員に対し、委託産業界による個人面談を実施している。総務課でその内容を共有し、フォローアップが可能な体制を整えている。また各学校にも、スクールカウンセラーの配置や産業界との相談体制を整えている。

平山 職員を守り切る見解と



※質問した議員自身の責任でまとめた原稿を、そのまま掲載しています。詳細は、映像配信をご覧ください。